

## 学校に眠るトキ

ふじのくに地球環境史ミュージアム 准教授

早川 宗志

明治・大正・昭和初期にかけて、小・中・高校など教育機関には、授業で活用するため学校教材の販売業者から購入した標本（教材業者標本）と、教師や生徒が地元の資源を収集した標本（教師・生徒作製標本）とが揃えられていった（早川 2023；早川ら 2023；早川・長橋 2023）。しかし、現在では学習指導要領から外れてしまう標本資料は、校舎の建て替えなどの際にゴミとして捨てられてしまう運命にある（ことが多い）。

著者は、学校に眠る標本が“忘れ去られたゴミ”ではなく、その標本から読み取れる情報や秘められたストーリーが“宝の山”になるものと信じている。実際、学校標本にはトキやライチョウ、アシカ類など学術的にも貴重な標本が含まれていることがある。山階鳥類研究所が公立高校を対象に実施したアンケート調査では、回答のあった 495 校中 35 校がトキの標本を保有していた（浦野ら 2005）。本稿では、静岡県立磐田南高校に所蔵されていたトキの剥製標本について紹介したい。

磐田南高校には、教材業者標本として約 50 点の剥製標本・骨格標本（図-1）、数十点の液浸標本（図-2）、多数の岩石標本（図-3）が旧蔵されていた。教師・生徒作製標本は、100 点以上の液浸標本、多数の岩石標本、食害された昆虫標本があった。これらのコレクションのうち、岩石標本は地学教員により、「地学基礎」などの科目において活用されてい

た一方、生物標本は、“開かずの間”状態の生物部部室の戸棚の中に置かれていた。

生物標本のうち、特に重要なコレクションのひとつにトキの剥製標本があった。トキの剥製標本は、学校教員にも重要なコレクションと認識され、生物準備室の戸棚の中で専用のケースに入れられていた（図-4）。また、授業での使用や文化祭で展示されることもあった。このトキの剥製標本は、嘴が短く、顔がオレンジ色、後頭部の冠羽が短い形態の特徴を持っていたことから、生後 1 - 2 年の若い個体と考えられた（図-5）。

磐田南高校が実施した卒業生への聞き取り調査資料から、トキの剥製標本は昭和初期に卒業生の親族から磐田南高校へ寄贈されていたことが判明している。国立歴史民俗博物館データベース“Khirin”を参照した結果、寄贈者は式年遷宮に併せて調製される伊勢神宮内宮の御装束神宝のひとつの須賀利御太刀（昭和 4 年）の拵の製作者であった。須賀利御太刀には柄の装飾に鴛羽が用いられることから、鴛羽を採集する目的でトキの剥製標本が作成された、もしくは既存のトキ剥製から鴛羽を採取した可能性がある。なお、この時期は国内のトキの個体数が極めて少ない頃でもある（山階・中西 1983）。その後、2003 年に最後の日本産トキ「キン」が死亡し、日本産トキは絶滅してしまったが、中国産トキをもとに人工繁殖が行われ、2008 年からトキが放鳥され野生復帰



図-1 磐田南高校の旧生物室における旧蔵状況（撮影：岡宮久規）



図-2 磐田南高校の旧生物室に所蔵されていた液浸標本（撮影：岡宮久規）



図-3 磐田南高校の旧地学室に所蔵されていた岩石標本（撮影：岡宮久規）



図-4 磐田南高校に所蔵されていたトキの剥製標本



図-5 磐田南高校に所蔵されていたトキの剥製標本 (撮影：岡宮久規)

している (島野 2021)。

最後に、トキの羽の古くなった油脂などを食べ、相利共生の関係にあると考えられるウモウダニについても紹介したい。日本産のトキ「キン」「ミドリ」の羽からは、トキウモウダニとトキエンバンウモウダニという2種のウモウダニが見つかっている。しかし、日本に野生復帰した中国由来のトキからはトキエンバンウモウダニのみが見つかり、トキウモウダニは見出されていない。このことから、日本産トキが絶滅したことに伴い、トキウモウダニも絶滅してしまったと考えられている (Waki & Shimano 2020, 島野 2021)。磐田南高校に所蔵されていたトキの剥製標本も風切り羽を顕微鏡で見れば、これら2種のウモウダニが見いだされるかもしれない。

以上から、磐田南高校に所蔵されていたトキの剥製標本は、日本の自然史・歴史文化を知る上での重要な資料となる可能性がある。学校標本にはその地域の自然史分野以外の専門家による寄贈標本が所蔵されているケースがあり、標本情報と歴史的経緯を併せて考えることで、教育史・文化史的な新知見が得られるかもしれない。

## 謝 辞

磐田南高校に所蔵されていたトキ剥製標本の移管や調査にご協力いただいた同校の教員、実習助手ならびに生物部の生徒、資料調査および草稿段階の本稿にアドバイスをいただいた岡宮久規氏、トキの剥製標本の形態についてご教示いただいた長田啓氏に感謝します。本稿の一部は、JSPS 科研費 23K00967 の助成を受けた。

## 参考文献

- 早川宗志 2023. 学校に眠る雑草標本. 植調 57 (8), 30-31.  
 早川宗志ら 2023. 清水東高等学校から見いだされた学校教材として販売されたさく葉標本. 植物地理・分類研究 71, 34-43.  
 早川宗志・長橋綾香 2023. 学校標本：学校に標本があるのはなぜか？. 理科教室 66, 70-72.  
 島野智之 2021. ダニが刺したら穴2つは本当か？. 風濤社, 東京.  
 浦野栄一郎ら 2005. 学校が保有する鳥類標本の実態に関するアンケート調査. 山階鳥類学雑誌 37, 56-68.  
 Waki T. & Shimano S. 2020. A report of infection in the crested ibis *Nipponia nippon* with feather mites in current Japan. Journal of Acarological Society of Japan.  
 山階芳麿・中西悟堂 1983. トキ—*Nipponia nippon* 黄昏に消えた飛翔の詩. Newton Books, 教育社, 東京.